

<今回>261回目 2019年7月8日(月)15時~18時 603号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p73 邪馬壹台国と邪馬臺国の間 から

<前回>260回目(19-6-21) 出席者 8名

資料(19-06-21-1)前回のまとめ(清水)

-2)不可致費直ほか(清水)

-3)郡評論争(清水)

-4)銅鐸国家と東鯤国(清水)

A 報告 初田氏は狭心症の疑いで入院治療されていたが、小康状態で参加された。また来週には入院治療されるとのこと。自重を願いたい。庄司さんは東戸塚講座が始まったので、読書会は次回より休校、山本さんは東戸塚の方は出席可だが、月曜日は他とちがうので、不可と云われるが、行きつ戻りつするから飛び飛びでも参加されるようお願いした。

B 資料 -2)笠井倭人の「古代日朝関係と日本書紀」から①不可致費直の使用例が小まめにまとめていたので紹介した。費、直もアタイと読む。②百濟三史の見方。③生口の留学生説が昔からあった。④平西將軍の四点を抜き出した。-3)郡評論争のまとめ。-4)銅鐸国家と東鯤国。いずれも昔の論である。

懇親会7名 津多屋13089円(1800・7) -489円

C 読書 p61 「後漢書」の邪馬臺国 から 交代読み

1)後漢書の各版本は邪馬臺国である。臺は「ト」と読めるか 後漢書の「臺」の文字をすべて抽出してみた。

①臺 宮殿名 靈臺17ヶ以下 13種51ヶ ②宮殿の一般的用法 高臺府1ヶ 以下7ヶ

③賤者 臺隸1ヶ以下 3ヶ ④尚書、御史臺、三臺 蘭臺12ヶ以下 44ヶ

⑤地名 臺県1ヶ以下 3ヶ ⑥人名 臺崇以下 7ヶ

⑦匈奴関係 左臺2ヶ以下 6ヶ ⑧倭人伝 邪馬臺国 1ヶ

以上より漢代は至高文字でなく、曹操が鄴に三臺を建ててから臺の盛行が始まった。そして316年西晋が滅んで至高文字の使用は終わりを告げた。

2)一方長江に移った東晋に対して、黄河流域は五胡十六国の時代で各々首都に臺を置いた。匈奴、羯、羌の例を引いて臺のインフレを示した。

3)4世紀末から5世紀前半の人である范曄は各夷蛮毎にその都の中枢に臺が置かれたのを知っていた。

范曄の改変動機

①漢書を訂正する時は断って訂正している。②三國志を訂正する時は断って訂正していない。2例上げている

檀石槐 東汗国を撃ち、千余家を得を 檀石槐東倭人国を撃ち、千余家を得 としている。後漢書全巻の再末尾が魏書を下敷きにしているのは文面が酷似しているから分かるが 汗国が誤りだとか魏書からの引用だとか記していない。

4)1, 2世紀の倭人国は天子を称していない。先行して邪馬臺国と名乗っていたとは考えられない。邪馬臺国は5世紀の范曄の認識である。

次回日程 19-7-26(金)15時から18時 602号室

-8-9(金) 16時から18時 601号室

-8-26(金) 15時から18時 603会議室

-9-9(月) 16時から18時 601会議室